

明日の県立図書館を思う  
速水亨さん(速水林業代表)

### 図書館との関わり

図書館は開架が楽しい。全て開架は難しいとしても、どこにどんな本があるか、自分が探していた本の隣にある本が気になる。図書館の書架は世界であり、町並みである。

### 三重県立図書館のあり方

三重に関する歴史書、資料など、あらゆる書籍、三重出身の作家、三重の地名の入った小説を集めるとか、徹底すればいい。

「三重といえば？イメージは？」への答えに、図書館が果たす役割があるのではないか。県内での三重県、県外から見た三重県・・・つきつめていくと、見えてくるかもしれない。

図書館の新しい取り組みや、レファレンスの充実は理解できる。それでも、図書館が充実していること、探したいものがすぐみつかるという基本が大事である。

MILAI もPR しないといけない。

三重県はトランシーやイオンなど、倉庫業がしっかりしているところだ。だから、新博物館は在庫管理をしっかりやれ、と言った。図書館もそうだ。三重県が持つ力を利用して、蔵書の縦横等様々な形での検索能力を持つことで、必要な時にすぐ出せる倉庫のようなしくみを作ればいい。

### ビジネスコーナー

特許に関わる情報は必要。

ビジネスとは、幅広い、あらゆる情報の中から自分で選びとること。だから「コーナー」ではビジネスができない。ビジネスはノウハウ本のことでもないはず。ビジネスと名づけるとどんな資料を集めるのか疑問。ビジネスで必要とするのは、例えば企業が進出しようとする時、水利権についての報告書・データが縦軸横軸で引っ張り出せることなどその地域の図書館だから出せる情報を持つことがまず重要である。

図書館の情報はネットには絶対ない。歴史、産業の主流だけでなく、側面を見つけられるのは図書館である。情報収集するには図書館が最適だが、多くの人がそこまでしない。だから自分たちのようなコンサルタント(私は東京で森林と環境のコンサルタント会社を経営している)が成り立ち、それで、値打ちが出る。これがビジネス。

日常的に上手に図書館を使う方法を教える「企業と図書館セミナー」を2週間に1度やればいい。まだ多くの会社関係者は図書館の使い方をあまり知らないだろう。コンサルタントは報告書類を調べるなら地元の図書館が便利と考えている。

### 改革の手法

無理なことはやってはいけない。コストパフォーマンスを重視すること。予算はますます厳しくなるだろうから。

規則を整理すること。例えば、なぜ館内で写真をとってはいけないのか。歴史あるところだからこそ、一度規則をゼロにして作り直すサンセット論が有効。これは規則の中で働いていた人たちが規則を作り直すということであり、元気の元になる。例えば、貸出・返却にレンタルビデオ店のノウハウを導入してみるとか、10あるうちの1つでも変わればいい。

明日の県立図書館を思う  
速水亨さん(速水林業代表)

継続することは、その理由をより確実にしておくこと。例えば指定管理者導入に関する県議会の議論は図書館の特徴の議論があったと聞く、そのような議論の内容を積極的に理解していくことなど重要だ。決定事項だけでなく、どういう議論がされたかが大事である。そして、反対意見を出した人の思いを変えられるよう業務に励むこと。攻められてからでは遅いから、先手を打つ心づもりが大事。

図書館は保守的な、かび臭いところと思われる。改革の形ができれば、発信を続けること。最初は田舎の盆踊りのノリで手作りのポスターを作ったりして、自分たちで成果を味わってみるとよい。

内部については、早めに目的を与えて、自分たちで変えていく雰囲気を作ること。目的は内向きではなく、最終的には利用者、ひいては県民全体にどのように貢献するかなど大事である。

#### 【新しい提案】

図書館に閉じこもらず、文芸フェアを開催したらいかがか？

例えばどこかの市町と提携して、大手出版社に協力を仰ぎ、全国から作家を招待して、その時ばかりはだれもが作家と自由に語れる場とする。作家が音楽を奏でるもよし、劇を演ずるもよし、朗読をするもよし、体操をするもよし。長く続ければ伝統ができるのではないか。英国ではこのようなイベントが大変人気があると聞く。